

自然体験活動指導者（NEALリーダー）養成講座（3年目）

1 事業概要

台風接近により、2日目のカヌーに乗る直前にダム放流が始まり、予定や場所の変更はあったが、国立大洲青少年交流の家や大洲市を流れる肱川で、講義や演習を受けたり、指導者としての指導法・技術の習得などを学んだりした。



2 事業の目的（ねらい）

全国体験活動指導者認定委員会が制定した「自然体験活動指導者養成カリキュラム」に則り、青少年向け自然体験活動プログラムにおいて、発達段階に応じて適切かつ安全に指導ができる自然体験活動指導者（NEALリーダー）を育成する。

3 企画のポイント

法人ボランティア養成講座との単位読み替えが可能な部分を前半に設定し、法人ボランティアの資格をすでに取得している参加者は、2日目からの1泊2日の参加で認定試験を受けられるように企画した。また肱川での実習を設定することにより、受講者それぞれの活動フィールドは違うが、指導者の立場になった時に、自分であればどのように対応するかなどを想定しながら多くのことを考え、学びを深めることができると考えられる。

- 4 主催** 独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立大洲青少年交流の家
- 5 後援** 大洲市教育委員会
- 6 期日** 令和元年9月21日（土）～9月23日（月）
- 7 場所** 国立大洲青少年交流の家・肱川
- 8 対象** 国公立・財団等の青少年教育施設職員、青少年教育に係る指導員やリーダー都道府県・市町村の社会教育主事や社会教育担当職員
教職員や民間団体等で指導に携わる者やそれを目指す大学生等（18歳以上）
- 9 参加人数** 16名（定員20名）

- 10 参加費** 【2泊3日参加者】3,850円 【1泊2日参加者】2,150円

- 11 講師**
- | | | |
|-------------|-------|---------------------|
| びわこ成蹊スポーツ大学 | 副学長 | 中野 友博 氏（講義・演習3・4・5） |
| 愛媛大学 教育学研究科 | 教授 | 山崎 哲司 氏（講義6） |
| 日本カヌー連盟 | 公認指導員 | 大谷 裕之 氏（講義・演習7） |
| 国立大洲青少年交流の家 | | |
| 事業推進係 | 係長 | 大藤 毅（ガイダンス①・②） |
| | | ※NEAL主任講師 |
| 国立大洲青少年交流の家 | 職員 | （講義・演習1・2） |

12 日 程

【1日目：9/21】

- 12:30～ 集合・受付（参加者①：2泊3日）
- 13:00～ 開講式・ガイダンス①0.5H
- 14:00～ 講義・演習1「自然体験活動の技術（野外炊飯による夕食含む）」4.0H
- 19:00～ 講義2「青少年教育における体験活動」1.5H

【2日目：9/22】

- 9:00～ 演習3「自然体験活動の安全管理」3.0H
- 12:30～ 集合・受付（参加者②：1泊2日）
- 13:00～ ガイダンス②0.5H
- 13:30～ 講義・演習4「自然体験活動の指導」1.5H
- 15:30～ 講義・演習5「自然体験活動の技術」2.0H
- 19:00～ 講義6「対象者理解」1.5H

【3日目：9/23】

- 9:00～ 講義・演習7「自然体験活動の特質」3.0H
- 13:30～ 認定試験 0.5H・ふりかえり・閉講式

13 活動内容

【1日目】

1日目は、法人ボランティアの資格がない社会人を中心に、12名が受講した。職員がガイダンス①としてNEALリーダー養成講座の大まかな流れや仕組みについて説明を行った。ガイダンス後は「自然体験活動の技術」として、職員がアイスブレイクや野外炊飯の指導を行った。「青少年教育における体験活動」の講義では、職員が無人島事業の御五神島での体験を基に、青少年教育における体験活動の意義や、発達段階に応じた体験活動の必要性について説明をした。



【2日目】

「自然体験活動の安全管理」では、中野氏によるKYT（危険予知トレーニング）の説明やハインリッヒの法則など、リスクマネジメントの考え方についての講義があった。「自然体験活動の指導」「自然体験活動の技術」では、肱川へ移動してカヌーに乗る予定だったが、ダム放流が始まった為、カヌーには乗らず、ライフジャケットの正しい着用の仕方、カヌーの乗り方、スローバッグの使用などカヌー艇庫前や河原で学んだ。「対象者理解」では、山崎氏による、各年代（幼児期、児童期、青年期）の発達段階を考慮することやリフレクション（省察）の重要性について講義があった。



【3日目】

「自然体験活動の特質」では、大谷氏の指導によるカヌーの操作やバディーの確認、リバーサインの習得、河原で事故が発生した時に指導者としてとる行動（判断）などを肱川で行った。前日のダム放流の影響で、川の本流の流れは速かったが、流れが遅くなる部分（エディー）を選択し演習をした。参加者は指導者として水の流れを読むことの大切さを学んだり、流れを体感したりした。



1.4 参加者の声

参加者の事後アンケート結果を以下に示す。

* 満足：75% * やや満足：25% * やや不満：0% * 不満：0%

- 指導者の視点で活動をする事ができた。
- 実体験的に学べて良かった。
- 学ぶことがたくさんありました。今までの視点と違った方向からの視点で、新しい発見があり本当に良かったです。
- Very good program. I did learn a lot.
- より具体的な危険予知の仕方を学ぶことができた。
- 専門的な内容を分かりやすく教えていただきました。
- 肱川の自然を生かしてのカヌー活動、とても素晴らしいです。



1.5 事業の成果

今回の受講者16名のうち、初日から受講した12名は、社会教育施設職員と資格取得を目的とした社会人と学生であった。2日目からの受講した4名は、当施設で法人ボランティアとして活動する学生であった。法人ボランティア養成講座の読み替え部分を前半に配置した企画は、それぞれのニーズを満たしたと考える。また、アンケートの回答からも読み取れるが、受講者は様々な講義・演習を通して、自分が指導者の立場になった時に、どのように対応すればよいか考えることもできたようである。

1.6 事業の課題

台風接近によりダム放流が始まり、「カヌー」を使った活動に制限が生じた。代替案を事前に講師とある程度調整はしていたが、難しい部分もあった。しかしながら、「カヌー」を使った活動は好評であったため、次年度も取り入れたいところである。今後代替案について、さらに検討する必要性を感じている。

(担当：企画指導専門職 武藤 健太郎)